



佐賀県立九州陶磁文化館

令和 3 年度年報・資料目録No.41

Annual Report &

Catalogue of Collections No.41

The Kyushu Ceramic Museum

2021.4 ~ 2022.3

は じ め に

このたび、令和3年度の事業概要をまとめました。

令和3年度は、当館の展示内容を外国人にもわかりやすいものに磨き上げることにより、有田焼をはじめとする本県が誇るやきもの文化の魅力や価値を国内外に発信することを目的に、開館以来となる常設展示のリニューアルに取り組みました。

また、開館以来40年間に寄贈された当館の収蔵品の中から、100件の名品を企画展「寄贈名品100選 一肥前からアジアの陶磁器まで」として展示し、多くのお客様に御好評を頂きました。

さらに、「有田国際陶磁展」など当館以外が主催する7つの展覧会も開かれ、陶芸文化の向上に貢献しました。

この他、全国各地の機関から依頼された調査研究活動などへの協力にも対応いたしました。

これまで以上に多くの皆様にご利用いただけるよう職員一同努力を重ね、各種事業について今後も一層の充実に努めてまいりますので、引き続き関係各位の御指導と御協力をお願い申し上げます。

佐賀県立九州陶磁文化館
館 長 鈴田 由紀夫

目 次

はじめに	1
目 次	2
館の概要	
設立の目的 活動の目的	3
沿革	4
施設・設備の概要	5
組織・職員・協議会委員・資料専門委員	8
佐賀県立博物館施設資料購入指針	10
佐賀県立九州陶磁文化館資料取扱規程	11
佐賀県立九州陶磁文化館施設等の使用に関する取扱要領	14
事業日誌	15
展示活動	
1. 常設展	16
2. 企画展・テーマ展など	22
3. 利用状況	31
4. 館蔵資料等の貸出	32
5. 蔵資料等の閲覧・撮影・画像原稿借用・画像使用等	32
※ グローバル化推進事業	33
教育普及活動	
1. 展示案内	34
2. イベント・行事など	35
3. 印刷物等の刊行	36
4. 博物館実習	37
5. 講演など	37
調査研究活動	
1. 調査	37
2. 調査協力・研修・出張など	38
3. 依頼資料調査	38
資料収集活動	
1. 陶磁資料の収集	39
2. 図書資料の収集	39
※ 文化財の指定	39
佐賀県立九州陶磁文化館資料目録 令和3年度	40

館の概要

設立の目的

佐賀県立九州陶磁文化館は、肥前陶磁をはじめ、各地域において、独自の伝統を継承発展させてきた九州の陶磁器に関し、その文化遺産の保存と陶芸文化の発展に寄与する目的で設立されました。

そのため、歴史的、美術的、産業的にみて重要な資料を収集・保存・展示し、あわせて調査研究や教育普及活動を行っています。当館は、九州の陶芸文化に関する総合的施設の位置にあるばかりでなく、国際的にも注目される存在となることをめざしています。

活動の目的

・展示活動

展示室は5室に分かれ、常設展は4つの展示室からなり、九州陶磁の歴史と特色が順を追って把握できるように構成されています。第4展示室（九州陶磁の歴史）から始まり、第5展示室（柴田夫妻コレクション）、第3展示室（九州の古陶磁）を経由して第2展示室（現代の九州陶芸）の順となります。

内容的には九州の陶磁の基礎的学習ができる第4展示室、江戸時代の有田磁器を展示した柴田夫妻コレクションの第5展示室、九州の古陶磁を鑑賞する第3展示室、九州の現代陶芸を鑑賞する第2展示室というそれぞれの特色があります。

令和3年（2021年）度は、館の展示内容を外国人にもわかりやすいものに磨き上げることで、有田焼をはじめとする本県が誇るやきもの文化の魅力や価値を国内外に発信することを目的に常設展示（現第1展示室・旧第4展示室）のリニューアルに取り組みました。

・収集活動

国の内外を問わず、九州の陶磁に関して、体系的に資料（陶磁器・出土資料・古文書・古記録等）の調査収集を行っています。また、資料の充実を図るため、資料の購入や寄贈の受入等にも努めています。

・調査研究活動

九州の陶芸や陶磁産業を歴史的・総合的に明らかにするために、考古学・美術工芸史など色々な分野にわたる資料・文献の調査収集に努めています。また、学術講演会や研究の交流を通じて研究の進展を図っています。

・教育普及活動

展示案内等を行って陶芸文化に対する理解を深め、さらに陶芸実習室を創作活動の場として提供するなど、広く陶芸文化に関する普及活動を行っています。



沿革

昭和	48	(1973)	. 1. 8	有田町長外、国際陶芸美術館建設について陳情
昭和	51	(1976)	. 4	陶芸文化施設調査費を計上
	52	(1977)	. 4	陶芸文化施設調査費を計上
	52	(1977)	. 6	佐賀陶芸文化センター（仮称）建設計画案を作成
	52	(1977)	. 11	基本設計委託をアルセッド建築研究所と契約
	52	(1977)	. 11. 24	第1回佐賀県陶芸文化センター建設委員会開催
	52	(1977)	. 12. 8	佐賀県陶芸文化センター建設促進協力会設立（会長 鍋島直紹）
	53	(1978)	. 2. 28	基本設計完了
	53	(1978)	. 3. 29	建設費関係予算決定（約19億円）
	53	(1978)	. 4. 1	専任職員3名を配置
	53	(1978)	. 11. 15	建設工事入札
	53	(1978)	. 12. 20	設備工事入札
	53	(1978)	. 12. 27	用地譲渡契約締結（有田町より無償譲渡）
	54	(1979)	. 1. 16	起工式
	54	(1979)	. 5. 11	正式名称打合会（「西日本陶磁文化館」の案）
	54	(1979)	. 7. 6	正式名称「佐賀県立九州陶磁文化館」 （英文名称 THE KYUSHU CERAMIC MUSEUM）と決定
	54	(1979)	. 10. 3	外構・植栽工事入札
	55	(1980)	. 3. 25	佐賀県立九州陶磁文化館竣工（建設工事費：1,745,100千円）
	55	(1980)	. 3. 27	佐賀県立九州陶磁文化館条例・同管理規則等を公布
	55	(1980)	. 11. 1	開館
平成	元	(1989)	. 6. 12	染付鷺文三足大皿が重要文化財に指定
	5	(1993)	. 3. 25	柴田夫妻コレクション展示室完成
	5	(1993)	. 4. 29	柴田夫妻コレクション展示室が常設展の一室として開室
	6	(1994)	. 4. 1	旧窯業技術センター跡地(12,011.00 m ²)を当館敷地として所管換
	12	(2000)	. 2. 22	玄関自動ドア設置
	12	(2000)	. 12. 4	染付山水文輪花大皿が重要文化財に指定
	12	(2000)	. 12. 28	有田焼からくり時計設置
	14	(2002)	. 3. 20	来館者用トイレ改修・増設
	18	(2006)	. 3. 31	有田磁器（柴田夫妻コレクション）10,311点が国登録有形文化財 （美術工芸品）に登録
	26	(2014)	. 3. 31	防犯カメラ改修・新設
	26	(2014)	. 8. 31	エントランス照明設置
	27	(2015)	. 3. 16	身障者駐車場屋根設置
	27	(2015)	. 3. 16	収蔵庫棚新設
	27	(2015)	. 3. 20	館内Wi-Fi環境整備
	28	(2016)	. 3. 24	館内案内タブレットPC「九陶ナビ」（多言語対応）整備
	30	(2018)	. 10. 4	来館者用トイレ改修（洋式化等）
	31	(2019)	. 1. 21	非常用発電機更新
	31	(2019)	. 3. 27	大韓民国国立光州博物館との学術交流協定締結
令和	2	(2020)	. 11. 1	開館40周年
	3	(2021)	. 3. 19	荷物用エレベーター（1号機）及び乗用エレベーター（2号機）更新
	4	(2022)	. 3. 28	グローバル化推進事業（常設展示リニューアル等）

施設・設備の概要

所在地	佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1
設計管理	内田祥哉+アルセッド建築研究所
施工業者	(1) 建築・外構…住友建設・松尾建設共同企業体 (2) 設備工事・電気設備…新生電業・宮園電気共同企業体 (3) 空調設備…丸紅設備・昭栄設備工業共同企業体 (4) 給排水設備…葉隠設備工業(株) (5) 植栽…中村永楽造園土木(株)
工期	昭和54年(1979年)1月16日～昭和55年(1980年)3月25日
規模	(1) 敷地面積：43,619.59 m ² (2) 建築面積：3,831.93 m ² (3) 延床面積：6,526.54 m ² (4) 構造：鉄筋コンクリート造地上2階、一部3階建
主要設備	(1) 電気設備 設備容量：350 KVA (6,600V受電) 発電機：125 KVA (220V) (2) 空調設備 冷暖房：吸収冷温水機(能力544,320.0 kcal/h) 平成6年施工 その他：防排煙連動操作設備(防火シャッター、排煙ファン)等 (3) 給排水設備 給水設備：町水道使用、受入槽30t(15t 2基) 排水設備：町公共下水道 消火設備：屋内消火槽、ハロンガス消火設備等 その他：給湯設備、身障者便所等

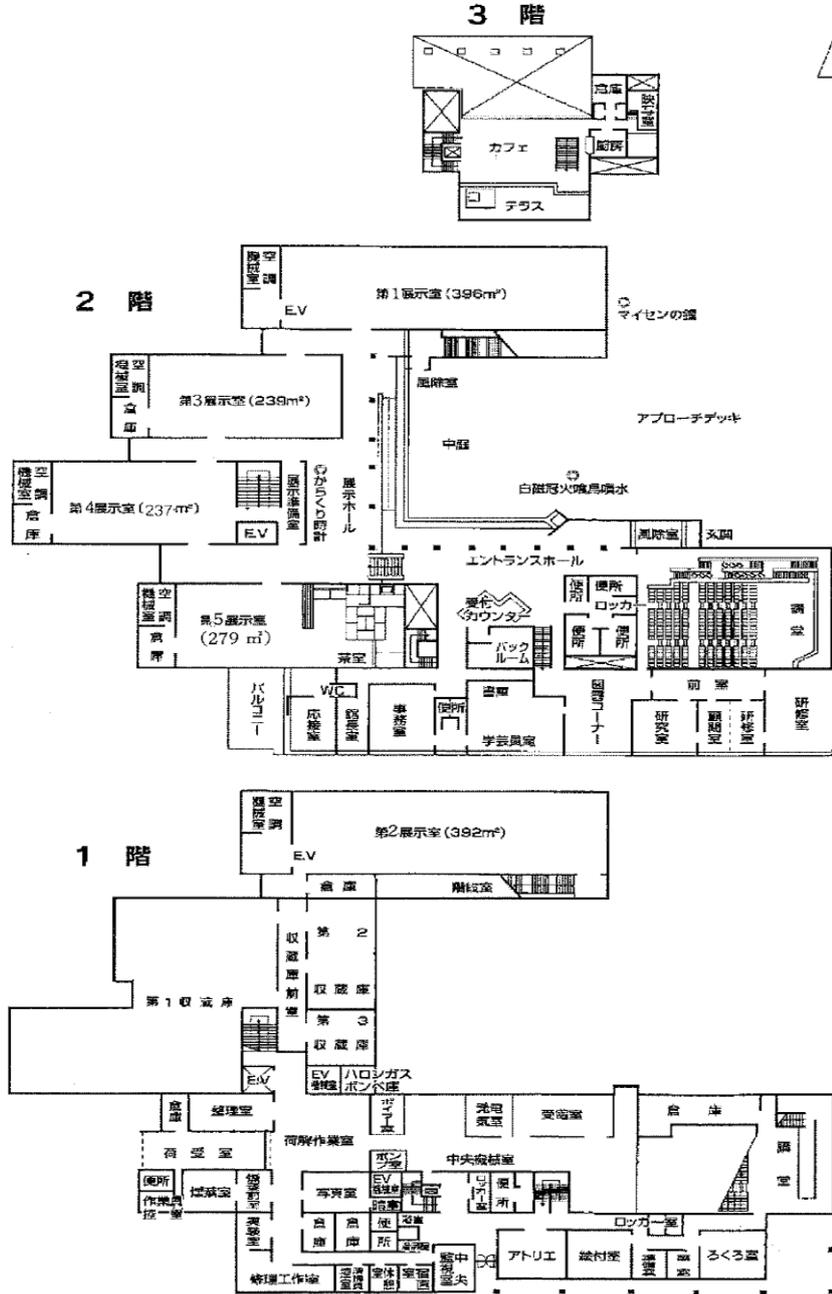
〔単位：㎡〕

部 門	室 名	室数	面 積	部 門	室 名	室数	面 積
展示施設	第 1 展 示 室	1	396.26	研究施設	研 究 室	1	54.58
	第 2 展 示 室	1	392.13		実 験 室	1	19.21
	第 3 展 示 室	1	239.54		そ の 他	1	56.05
	第 4 展 示 室	1	236.95		小 計		129.84
	第 5 展 示 室	1	279.56	管理施設	機 械 室		355.69
	展示準備室・倉庫	1	169.70		事 務 室 等		553.99
	小 計		1,714.14		小 計		909.68
収蔵施設	第 1 収 蔵 庫	1	532.68	共通施設	展 示 ホ ー ル		406.73
	第 2 収 蔵 庫	1	105.50		エントランスホール		284.15
	第 3 収 蔵 庫	1	52.44		そ の 他		868.61
	そ の 他	1	553.80		小 計		1,559.49
	小 計		1,244.42	研修施設	講 堂	1	385.49
研修施設	陶芸実習室	4	122.38		一般研修室	2	203.76
	一般研修室	2	203.76		図書コーナー	1	102.49
	図書コーナー	1	102.49		その他		154.85
	その他		154.85		小 計		968.97
	小 計		968.97	合 計		6,526.54	

*展示室名はリニューアル後のもの

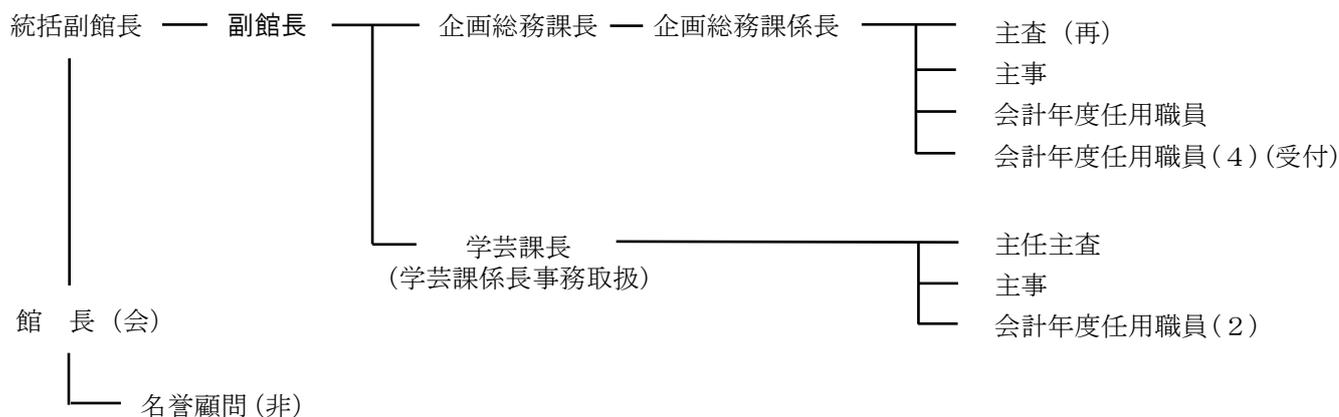
施設

施設平面図



展示室名はリニューアル後のもの

組 織



※ (非) は非常勤職員。(再) は再任用職員。(会) は会計年度任用職員。

職 員

職 名	氏 名	事 務 分 掌
館長	鈴田 由紀夫	館の代表
名誉顧問	大橋 康二	名誉顧問 館運営の専門的見地からの助言
統括副館長	加藤 英治	館の総括
副館長	徳永 貞紹	統括副館長の補佐
企画総務課長	平川 裕子	課の総括
企画総務課係長	田中 晋一	係の総括、企画・広報、予算・決算、特別企画展等関連イベント
主査 (再)	永尾 康範	広報、予算執行 (報酬・賃金、備品等)、施設・財産管理 (使用許可、植栽管理、備品を除く)
主事	松尾 明日香	予算執行 (庁舎維持管理等)、職員給与、施設・財産管理 (使用許可、植栽管理、備品を除く)
会計年度任用職員	杉原 由美子	普及啓発事務、図録グッズ販売管理、予算執行 (共通経費等)
会計年度任用職員	空閑 真弓	受付事務・入館者統計等
会計年度任用職員	大曲 身江子	〃
会計年度任用職員	仲出川 愛	〃
会計年度任用職員	永野 真美子	〃
学芸課長	藤原 友子	課の総括、資料調査・研究・収集・管理・普及・展示 (特別企画展等)
主任主査	山本 文子	資料調査・研究・収集・管理、普及・展示
主事	宮木 貴史	資料調査・研究・収集・管理、普及・展示
会計年度任用職員	山口 由佳	観覧者への説明案内、団体予約管理、英語対応、展示説明英語表記等
会計年度任用職員	川端 正美	観覧者への説明案内、団体予約管理、資料管理、展示補助

令和4年 (2022年) 3月31日現在

協議会委員（任期：令和3年（2021年）6月23日～令和5年（2023年）6月22日）

氏名	役職名
今泉 今右衛門	色鍋島今右衛門技術保存会会長、佐賀県陶芸協会会長
古賀 真理子	佐賀新聞西部支社記者
小林 知美	筑紫女学園大学准教授
酒井田 柿右衛門	柿右衛門製陶技術保存会会長
中里 太郎右衛門	佐賀県陶芸協会副会長
馬場 加代子	表千家同門会佐賀県支部幹事
原田 寿雄	佐賀県議会副議長
深江 孝子	有田観光協会観光ガイド(公募委員)
深川 祐次	有田商工会議所会頭
松尾 佳昭	有田町長
村上 伸之	有田町歴史民俗資料館館長
藤村 真理子	有田中学校教諭
古川 朋子	有田町婦人会会員
横尾 小百合	西有田中学校PTA母親委員長

令和4年（2022年）3月31日現在

資料専門委員（任期：令和3年（2021年）9月1日～令和5年（2023年）8月31日）

氏名	役職名
今泉 今右衛門	色鍋島今右衛門技術保存会会長
酒井田 柿右衛門	柿右衛門製陶技術保存会会長
中里 太郎右衛門	佐賀県陶芸協会副会長
福原 透	元 八代市立博物館未来の森ミュージアム副館長

令和4年（2022年）3月31日現在

佐賀県立博物館施設資料購入指針

(趣旨)

第1条 この指針は、規則その他規程に定めがあるものを除き、佐賀県立博物館・美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県立名護屋城博物館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館（以下「各館」という。）の資料購入を行うための、必要な事項を定めるものとする。

(資料収集調整委員会)

第2条 各館の購入資料は、すべて別途定める「佐賀県立博物館施設資料収集調整委員会（以下「委員会」という。）」において、選定するものとする。

(資料購入費の配分)

第3条 委員会事務局は、各館の購入実績等を踏まえ、事前に資料購入費の一応の目安額となる配分額を示すものとし、その調整は委員会において行うこととする。

2 購入資料の選定後、文化課は各館からの申請により資料購入費を再配当する。

(購入予定資料の評価)

第4条 委員会で選定した購入資料のうち、一件の購入予定価格が400万円以上のものについては、当該資料と直接利害関係を有しない複数の学識経験者等に意見を求めるものとする。また、購入予定価格の如何を問わず、評価が困難なものについても同様の取扱とし、適正な評価に努めなければならない。

(購入の取りやめ)

第5条 前条の評価の結果、購入が適当でない場合や市場の変化等により購入が不可能となった場合の購入とりやめの判断は各館の館長が行うものとする。なお、その際は委員会事務局へ速やかに報告することとする。

(資料の購入先)

第6条 資料購入先は、同一業者に偏向しないように配慮する。なお、原則として、年に1,000万円以上の取引が過去3ヶ年以上継続した業者からの購入は1年間見合わせる。

附則

(適用期日)

1 この指針は、平成24年5月9日から適用する。

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀県立九州陶磁文化館（以下「陶磁文化館」という。）が陶磁文化館資料（佐賀県財務規則（平成4年佐賀県規則第35号。以下「財務規則」という。）第143条第2項の規定による物品分類表中博物館資料に分類される物品をいい、以下「資料」という。）の購入、寄贈、寄託、一時預り、貸出し、公開等を行う場合における資料の管理・保管の方法について、財務規則に定めるもののほか必要な事項を定めるものとする。

(資料の分類)

第2条 資料の分類は、別表1の分類により整理するものとする。

(資料の購入)

第3条 陶磁文化館で購入する資料は、すべて佐賀県立九州陶磁文化館資料専門委員会（以下「資料専門委員会」という。）で選定し、佐賀県立博物館施設資料収集調整委員会（以下「調整委員会」という。）において決定するものとする。

2 陶磁文化館の常勤の館長又は統括副館長（以下「常勤館長等」という。）は、調整委員会で購入を決定した資料のうち1件あたりの購入予定額が400万円以上のものについては、専門委員会の委員から評価調書（別記様式第1号）により意見を求めるものとする。また、資料価値の算定が困難な資料については、購入予定額の如何にかかわらず、必要に応じて学識経験者等から意見を求め、適正な評価に努めなければならない。

3 常勤館長等は、前項の規定による評価の結果により購入を取り止めようとする場合又は購入が不可能と判断した場合は、不購入の決定を行うものとする。この場合は、調整委員会へ速やかにその旨を報告するものとする。

(資料の寄贈)

第4条 陶磁文化館に資料を寄贈しようとする者は、資料寄贈申込書（別記様式第2号）により申し込まなければならない。

2 常勤館長等は、前項の規定により申込みのあった資料について必要に応じて資料専門委員会に諮るなどの措置を講じ、陶磁文化館で所蔵することが適当と認めるものについては、寄贈資料受納調書（別記様式第3号）を作成し、受納を決定するものとする。この場合において、1件あたりの時価見積額が400万円以上の資料については、資料専門委員会の委員等による選定・評価を受けなければならない。

3 前項の規定により受納を決定した場合は、寄贈者に対し寄贈資料受納書（別記様式第4号）を送付するものとする。

(資料の寄託及び一時預り等)

第5条 陶磁文化館に資料を寄託（1年以上の期限を定めた寄託に限る。）しようとする者は、資料寄託申込書（別記様式第5号）により申し込まなければならない。

2 陶磁文化館が資料の寄託又は出品を所有者に依頼するときは、資料寄託・出品承諾書（別記様式第6号）又はこれに準ずる承諾書により所有者の承諾を得なければならない。

3 寄託の申し込みのあった資料で常勤館長等が認めたもの又は寄託の承諾を得た資料については、寄託資料受入調書（別記様式第7号）を作成し、受入れを決定するものとする。

- 4 前項の規定により寄託の受入れを決定したときは、資料寄託契約書（別記様式第8号）により契約を締結した後、寄託資料台帳（別記様式第9号）にその旨を登載するものとする。
- 5 展覧会への出品及び研究等のため短期間資料を預かるときは、出品者又は所有者に対し、資料一時預り証（別記様式第10号）を発行するとともに、一時預り資料台帳（別記様式第11号）にその旨を登載するものとする。ただし、企画展のための一時預りについてはこの限りではない。
- 6 埋蔵文化財（出土品）等所有権が確認できない資料について、現にその資料を管理している者から寄託及び出品の申し込みがあった場合又は同人に依頼する場合の手続については、当該管理している者を所有者とみなして前各項の規定を適用する。
- 7 佐賀県出土の埋蔵文化財のうち、国の保有する重要文化財等を1年以上継続して借用する場合は、第4項及び第5項の規定にかかわらず、国保有重要文化財等借用台帳（別記様式第12号）にその旨を登載する。

（資料の整理）

- 第6条 第3条及び第4条の規定により受け入れた資料は、当該資料一件ごとに資料カード（別記様式第13号）を作成し、整理しなければならない。
- 2 前項の資料には、資料ラベル（別記様式第14号）を貼付し、又は紐付けをして整理しなければならない。ただし、貼付し、又は紐付けすることが困難なときは、マーキングを施す等の適当な方法により整理するものとする。
 - 3 前条第4項に規定する寄託資料及び前条第7項の国保有重要文化財等については、前2項の規定を適用する。この場合において、前2項に規定する様式については、すべて赤枠で表示し区別するものとする。

（資料の貸出し）

- 第7条 資料の貸出しは、原則として行わないものとする。ただし、教育、学術及び文化に関する機関、団体等が行う展示会に貸し出す場合で、資料の保管について十分な管理体制がとられると認められるときは、業務に支障がない場合に限り、常勤館長等が貸出しを許可することができる。
- 2 前項ただし書きの規定により貸出しを受けようとする者は、資料借用申請書（別記様式第15号）又はこれに準ずる申請書を提出しなければならない。この場合において、貸出しを受けようとする資料が寄託品、一時預り資料又は国保有重要文化財等であるときは、所有者（第5条第6項に規定する場合は、当該資料を管理している者。第8条第2項において同じ。）の承諾書又はその写しを添付しなければならない。
 - 3 常勤館長等は、前項の申請により貸出しを許可したときは、資料貸出台帳（別記様式第16号）にその旨を登載し、申請者に対し資料貸出許可書（別記様式第17号）を交付するものとする。また、貸出しに際しては、借受人から借用書を提出させるものとする。
 - 4 資料の貸出しを行なう場合又は返納を受ける場合は、物品出納員並びに担当学芸員が立会し、受渡し又は受取りを行うものとする。この場合において、資料に破損、汚損又は亡失があったときは、常勤館長等は借受人に対し必要な指示をするとともに損害の賠償を請求するものとする。

（資料の公開・特別利用）

- 第8条 資料の公開は、陶磁文化館が主催して展示を行うとき又は前条の規定により貸出すとき以外には行わない。ただし、学術上の調査研究、文化振興等の目的で資料の閲覧、撮影、フィルム等画像原稿借用、印刷物・電子媒体等での画像使用、複製等（以下「特別利用」という。）を求められたときは、資料の保存及び業務に支障がない場合に限り、常勤館長等は条件を付してその利用を許可することができる。

- 2 前項ただし書きの規定により許可を得ようとする者は、資料特別利用許可申請書（別記様式第18号）又はこれに準ずる申請書を提出しなければならない。この場合において、許可を得ようとする資料が寄託品、一時預り資料又は国保有重要文化財等であるときは、所有者の承諾書又はその写しを添付しなければならない。
- 3 常勤館長等は、前項の申請により特別利用を許可したときは、資料特別利用許可簿（別記様式第19号）にその旨を登載し、当該申請者に資料特別利用許可書（別記様式第20号）を交付するものとする。
- 4 資料の閲覧、撮影等実物の取扱を伴う特別利用は、担当学芸員の立会いのもとで行い、その指示に従わなければならない。
- 5 印刷物掲載等の画像使用を行った場合は、利用後速やかに成果品を常勤館長等に提出しなければならない。電子媒体による出版又は放送等で映像を使用した場合もこれに準ずる。

（補足）

第9条 この規定に定めるもののほか、資料の取扱いについて必要な事項は、別に常勤館長等が定める。

附 則

この規程は、昭和61年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年5月12日から施行する。

佐賀県立九州陶磁文化館施設等の使用に関する取扱要領

(趣旨)

第1条 この要領は、佐賀県立九州陶磁文化館の施設及び附属設備（以下「施設等」という。）の使用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(使用の申込み)

第2条 九州陶磁文化館の施設等の使用をしようとする者は、使用日の1月前までに、九州陶磁文化館施設等使用申込書（以下「申込書」という。）（様式第1号）を九州陶磁文化館の常勤の館長又は統括副館長（以下「常勤副館長等」という。）に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、常勤副館長等が特に認めた場合は、申込期限を経過しても申込書を提出することができる。

(使用の承認等)

第3条 常勤副館長等は、申込書を提出した者に対し、施設等の使用を認める場合は、九州陶磁文化館使用承認書（様式第2号）を交付するものとする。

2 常勤副館長等は、次の各号のいずれかに該当するときは、使用を承認しないものとする。

- 一 営利を主たる目的とするとき。
- 二 館内の秩序を乱すおそれがあるとき。
- 三 館の資料及び施設等を損傷し、又は滅失するおそれがあるとき。
- 四 集团的又は常習的に暴力的行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- 五 その他管理上支障があると認められるとき。

(使用目的の変更等の禁止)

第4条 前条第1項の規定により使用の承認を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用目的を変更し、又は使用の権利を譲渡し、若しくは他に転貸することができない。

(使用者の義務)

第5条 使用者は、使用に当たり次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 定員を超えて入場させないこと。
- 二 使用目的以外の物品の販売若しくは陳列又は公告物の掲示若しくは配布をしないこと。
- 三 館の資料及び施設等を毀損しないこと。
- 四 その他常勤副館長等の指示に従うこと。

(使用承認の取消し等)

第6条 常勤副館長等は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、使用の承認を取り消

し、又は使用の中止を命ずることができる。

- 一 申込書の内容に偽りがあった場合
 - 二 その使用が第3条第2項各号のいずれかに該当することが明らかとなった場合
 - 三 前二条の規定に違反した場合
- 2 前項の規定により使用の承認を取り消され、又は使用の中止を命ぜられたことにより使用者に損害を生ずることがあっても、これに対する補償は行わないものとする。

(弁償)

第7条 使用者は、施設等の使用において資料又は施設等を亡失し、破損し、又は汚損したときは、常勤副館長等の指示に従い、現品又は相当の対価をもって弁償しなければならない。

2 使用者は、使用目的である講演、会議、交流会その他の会合に参加している者が前項に掲げる行為を行った場合についても、常勤副館長等の指示に従い、現品又は相当の対価をもって弁償しなければならない。

(光熱水費の負担)

第8条 常勤副館長等は、使用者が使用に際して相当の電気又は水道等の使用を伴う場合は、当該使用の目的及び使用実態等を勘案して、当該使用者に対して相当の光熱水費の負担を求めるものとする。

2 使用者は、前項の規定により、常勤副館長等から光熱水費の負担を求められた場合は、指示された期限までに納入しなければならない。

(収益等を伴う場合の取扱い)

第9条 施設等を使用する際に、収益を伴う使用及び観覧料等を徴する使用の場合については、この要領にかかわらず佐賀県公有財産規則（昭和40年佐賀県規則第6号）第19条及び第20条の規定に基づき処理するものとする。

附 則

この要領は、平成20年1月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成22年1月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和3年6月1日から施行する。

様式第1号 九州陶磁文化館施設等使用申込書(略)

様式第2号 九州陶磁文化館使用承認書(略)

事業日誌

令和3.(2021) 4.29「第117回 有田国際陶磁展」(～5.9)

7.28「第42回 九州新工芸展」(～8.9)

8.21「第1回 伊万里・有田焼伝統工芸士、佐賀県陶磁器技能士連合会展」(～8.29)

8.31「第30回 陶千坊展」(～9.5)

9.18「第37回 有田陶交会展」(～9.26)

10.8 企画展「寄贈名品100選—肥前からアジアの陶磁器まで—」(～12.12)

11.24 第4展示室(新第1展示室) 展示リニューアルのため閉室(～3.31)

令和4.(2022) 1.18「第53回 有田工業高等学校卒業制作展」(～1.23)

1.25「第32回 九州陶磁器デザイナー協会展」(～1.30)

2.1 展示リニューアルのため休館(～3.31)

展 示 活 動

1. 常設展 九州の陶磁

当館の常設展は4つの展示室からなり、九州陶磁の歴史と特色が、順を追って把握できるように構成されています。

順路は第4展示室（九州陶磁の歴史）から始まり、第5展示室（柴田夫妻コレクション）、第3展示室（九州の古陶磁）を經由して第2展示室（現代の九州陶芸）で終わります。

内容的には九州の陶磁の基礎的学習ができる第4展示室、江戸時代の有田磁器を展示した柴田夫妻コレクションの第5展示室、九州の古陶磁を鑑賞する第3展示室、九州の現代陶芸を鑑賞する第2展示室というそれぞれの特色があります。

大規模な企画展が開かれる場合は、九州陶磁の歴史展示室、柴田夫妻コレクション展示室を除いて他の2室は一時的に撤収し、対応しています。

なお、令和3年（2021年）度は、展示内容を外国人にもわかりやすいものに磨き上げることにより、有田焼をはじめとする本県が誇るやきもの文化の魅力や価値を国内外に発信することを目的に常設展示のリニューアルに取り組みました。

*展示室名称はリニューアル前のもの

会 期 令和3年（2021年）4月1日（木）～
令和4年（2022年）1月30日（日）（休館日を除く）

展 示 室 第2展示室、第3展示室及び展示ホール
第4展示室（九州陶磁の歴史）
第5展示室（柴田夫妻コレクション）

入 館 者 18,532人 1日平均72人



展示ホール

（1）九州陶磁の歴史（第4展示室）

この展示室では、やきものについての基礎的な知識をはじめ、中国・朝鮮の強い影響のもと、日本の、とりわけ九州の陶磁器がどのように発展してきたか、古代・中世から近世・近代までの流れを紹介しています。特に、肥前で生産された磁器については、その生産の技術や国内での流通及び海外との貿易についても説明しています。また、陶器や磁器の具体的な製作工程や装飾技法についても学ぶことができます。

展示内容を詳しく解説した冊子「土と炎」を刊行しています。

なお、江戸時代に海外輸出された有田焼の蒲原コレクション101点は、この展示室で御覧になれます。

【展示内容】

1. やきものの基礎知識
2. 中国・朝鮮の陶磁の流れ
3. 日本の陶磁の流れ
4. 九州陶磁の展開（タッチパネル）
5. 九州の陶器
6. 磁器の始まり
7. 有田・大川内山の登窯
8. 窯跡復元模型
9. 九州の磁器
10. 古伊万里とオランダ貿易
11. ヨーロッパの古伊万里
12. 蒲原コレクション
13. 近代の九州陶磁



第4展示室

14. 装飾技法
15. 陶片にみる肥前のやきもの
16. 陶器と磁器の制作工程

※次の期間は展示リニューアルのため閉室（令和3年11月24日～令和4年3月31日）

（2）柴田夫妻コレクション（第5展示室）

柴田明彦・祐子夫妻から、平成2年（1990年）より15年にかけて寄贈していただいた江戸時代の有田磁器10,311点の中から508件1,014点を常設展示しました。

このコレクションの特徴は、有田磁器の歴史の変遷がわかるように各時代の様々な種類の作品が網羅されている点にあります。

この展示室では次のようなコーナーを設けて、有田磁器の様式の特徴、技術の変化、器種別の変遷などを紹介しています。

【コーナー】

1. 柴田夫妻お気に入りの器
2. 年代による変遷
3. 江戸時代の食膳
4. 種類
5. 成形・装飾
6. 手塩皿
7. 銘の変遷
8. 芙蓉手皿の変遷
9. 出土陶片との比較



コーナー1. 柴田夫妻お気に入りの器



コーナー7. 銘の変遷

（3）九州の古陶磁（第3展示室）

常設展「九州の古陶磁」は、佐賀・長崎・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の九州・沖縄各県に分けて、江戸時代の陶磁器を紹介しています。

唐津焼に始まる肥前の陶磁器は、日本初の磁器を産み出した後、その発展にともない初期伊万里、柿右衛門様式、鍋島藩窯様式など様々な様式を産み出してきました。

また、九州各県に点在する茶陶の名窯や日常生活の中で愛された民窯では、地域色豊かな陶器や磁器が焼かれています。

館蔵品を中心にした展示総数は92件126点です。

※次の期間は展示替のため閉室（11月29日～12月14日）

（4）現代の九州陶芸（第2展示室）

歴史的に多様な展開がみられる九州の陶芸は、それぞれ茶陶として、また芸術性の高い美術工芸品として、あるいは民陶として今日に受け継がれています。

こうしたなかで、創作的な活動を続けている陶芸作家を選び、その代表作を一堂で紹介するのが第2展示室の「現代の九州陶芸」です。現在、九州5県の96名による作品を展示しています。県別では佐賀県が最も多く、次いで福岡県、鹿児島県の順となります。

展示室では、日本工芸会に所属している作家作品、さらに日展系・民陶系などの作家作品を御覧になれます。また水指・茶入など茶道具関連の作品も鑑賞できます。なお、日本芸術院会員や重要無形文化財保持者の作品は展示ホール（有田焼からくりオルゴール時計横）に展示しています。また、寄贈いただいた青木龍山作品を毎月5点ずつ展示ホールに展示しました。伝統的な陶芸技術を駆使した作品から、従来の陶芸技術とはおもむきの異なる前衛的な作品までが展示され、陶芸文化の多様性が示されています。

※次の期間は企画展のため展示中止（4月19日～5月14日、9月27日～12月17日）

【現代の九州陶芸 展示目録】令和3年（2021年）4/1～9/26、12月21日～1月30日

展示総数：96件101点

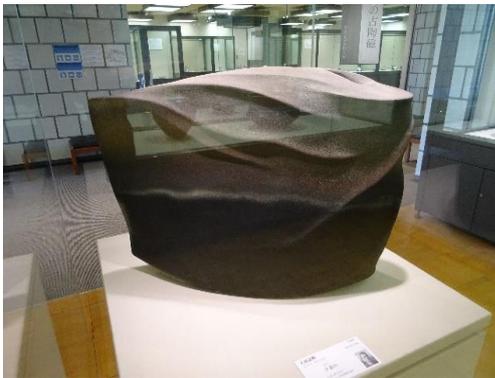
50音順

No.	氏名	県名	作品名	製作年	出展・入賞	所属
1	青木龍山	佐賀県	天目 花器	昭和50年代 (1975～1985)		日展
2	荒木秀樹	鹿児島県	苗代川白彫文鉢	平成13年(2001)	第48回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
3	有山長佑	鹿児島県	秋韻=式	令和2年(2020)	改組新第7回日展出品姉妹作	日展
4	有山禮石	鹿児島県	蓬莱山	平成29年(2017)	鹿児島県連合華道会・鹿児島陶芸協会 合同展出品作	日展
5	石添秀正	長崎県	爽奏	平成30年(2018)	改組新第5回日展出品作	日展
6	石橋國男	佐賀県	浜辺	平成30年(2018)	平成30年名護屋城博物館陶酔会展出品 作	日展
7	石原祥嗣	福岡県	彩陶扁壺	平成30年(2018)	第115回有田国際陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
8	井上俊一	福岡県	錫白瑠璃金銀彩方器	平成19年(2007)	館蔵	無所属
9	井上泰秋	熊本県	青小代面取水指	平成30年(2018)		民陶
10	井上萬二	佐賀県	白磁緑釉椿彫文面取壺	平成10年(1998)	館蔵	日本工芸会
11	14代 今泉今右衛門	佐賀県	色絵薄墨墨はじき雪文鉢	平成24年(2012)	館蔵	日本工芸会
12	今村博	佐賀県	双流	平成27年(2015)	第30回日展出品作	日展
13	岩田義實	佐賀県	二色のカタチ	平成30年(2018)		無所属
14	浦郷好文	佐賀県	夏・蓮華	令和2年(2020)	第70回佐賀県美術展覧会	日展
15	江口勝美	佐賀県	和紙染剥抜更紗軸管	平成9年(1997)	館蔵	日本工芸会
16	太田孝宏	福岡県	飴釉白掛け鉢	平成22年(2010)		民陶
17	太田秀隆	福岡県	藁灰釉彩泥鉢	平成22年(2010)		日本工芸会
18	大橋裕	佐賀県	Firenze II	平成22年(2010)		無所属
19	大村就康	福岡県	刷毛目扁壺	平成30年(2018)		日本工芸会
20	大宅利秋	佐賀県	陶花	令和3年(2021)	第117回有田国際陶磁展入選作品	日展
21	小笠原長春	佐賀県	鍋島青磁羊歯文八角大皿	平成20年(2008)		日本工芸会
22	岡本作礼	佐賀県	唐津叩き焼ヶ壺	令和元年(2019)		無所属
23	小川善光	佐賀県	みなも	平成30年(2018)	第31回現代工芸九州会展出品作	日展
24	奥川俊右衛門	佐賀県	白磁花瓶	令和元年(2019)		日本工芸会
25	尾前喜八郎	鹿児島県	銀彩陶鐔	平成30年(2018)		日本工芸会
26	甲斐一	福岡県	鉄釉窯変組皿	令和元年(2019)	第54回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
27	梶原茂正	佐賀県	水彩鉢	平成30年(2018)	九産大 国際交流20周年記念 教員作品展 出品作	日本工芸会
28	勝田文博	佐賀県	和紙染紫陽花花器	令和元年(2019)	第54回西部伝統工芸展入選作	日本工芸会
29	亀井樂山	福岡県	高取白釉七宝透し平水差	令和元年(2019)		日本工芸会
30	河口純一	佐賀県	釉裏彩華文花器	平成30年(2018)	西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
31	川崎精一	佐賀県	月下美人陰刻花器	平成26年(2014)	第61回日本伝統工芸展入選作	日本工芸会
32	川添貞秀	長崎県	青白磁鎬彫壺	令和元年(2019)	第54回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
33	神田和弘	鹿児島県	集い	平成24年(2012)	第109回九州山口陶磁展第1部第1位 文部科学大臣賞	無所属

34	久保満義	鹿児島県	滔風 2019・I	令和元年(2019)	第58回日本現代工芸美術展出品作	日展
35	久保田烈工	熊本県	青白磁彫文壺	平成30年(2018)		日本工芸会
36	熊谷無造	福岡県	上野茄子茶入	平成20年(2008)		日本工芸会
37	熊本義泰	佐賀県	青磁紫陽花文方形鉢	平成30年(2018)	第53回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
38	高鶴元	福岡県	彩釉割高台茶碗	令和2年(2020)		無所属
39	高鶴淳一	福岡県	桜灰釉茶碗	令和元年(2019)		日本工芸会
40	五嶋竜也	熊本県	青白磁蓮鉢	令和2年(2020)		日本工芸会
41	厚東孝治	鹿児島県	弥生一邑の碑	平成13年(2001)		日展
42	14代 酒井田柿右衛門	佐賀県	濁手撫子文大皿	平成10年(1998)	館蔵	日本工芸会
43	15代 酒井田柿右衛門	佐賀県	濁手紅葉文蓋物	平成28年(2016)		日本工芸会
44	坂本義弘	佐賀県	布染葉文花器	平成20年(2008)	佐賀県陶芸協会展出品作	館蔵 日本工芸会
45	佐々木厚	福岡県	陶壺-2018	平成30年(2018)		無所属
46	貞松善次	佐賀県	晨	平成22年(2010)	第42回日展入選作	日展
47	嶋田敏生	佐賀県	連作 バベルの塔	平成31年(2019)	第116回有田国際陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	無所属
48	庄村健	佐賀県	藍染花器	平成8年(1996)	第93回九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞	日本工芸会
49	庄村久喜	佐賀県	白妙彩磁壺	平成30年(2018)		日本工芸会
50	白武初芳	佐賀県	悠久の大自然	平成30年(2018)	第40回日本新工芸展出品作	日展
51	世良彰彦	福岡県	雫(椿の景色)	平成29年(2017)	改組新第4回日展出品作	日展
52	添田和信	福岡県	刷毛目鉄彩壺	令和元年(2019)		日本工芸会
53	高木清次	長崎県	爽	昭和61年(1986)		日展
54	高田さとし	鹿児島県	暉環-15・A	平成27年(2015)	改組新第2回日展出品作	日展
55	13代 高取八山	福岡県	高取重ね茶碗	令和2年(2020)		無所属
56	高森誠司	佐賀県	薄萌葱青磁鉢	令和元年(2019)	第66回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
57	立井清人	長崎県	埋め込み大鉢	平成18年(2006)	第104回九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
58	田中忍	佐賀県	始夏	平成8年(1996)	第46回 佐賀県美術展 文部大臣奨励賞 館蔵	日展
59	15代 沈壽官	鹿児島県	薩摩朝顔香爐	令和2年(2020)		無所属
60	津金日人夢	熊本県	青瓷花瓶	令和2年(2020)		日本工芸会
61	辻聡彦	佐賀県	「波立つ」	平成14年(2002)	第99回九州山口陶磁展 文部科学大臣奨励賞 館蔵	日展
62	寺崎康子	佐賀県	無限の彼方まで	平成30年(2018)	改組新第5回日展出品作品	日展
63	照井一玄	佐賀県	装う	令和元年(2019)	現在の形の陶芸 萩大賞展V入選	日展
64	徳澤守俊	福岡県	朝鮮唐津花器	平成28年(2016)		日本工芸会
65	中尾純	佐賀県	白磁面取線彫花器	令和元年(2019)	第105回九州山口陶磁展 文部科学大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
66	中尾恭純	佐賀県	四方櫛文彩色象嵌面取花生	平成20年(2008)		日本工芸会
67	中尾龍純	佐賀県	染付三色彩桜宝彫七宝文様壺	令和3年(2021)	第33回日展出品	日本工芸会
68	中里逢庵	佐賀県	叩き三島象嵌貝焼締魚文壺	平成13年(2001)		日展

69	14代 中里太郎右衛門	佐賀県	唐津墨雲面取壺	平成29年(2017)	館蔵	日本工芸会
70	中島宏	佐賀県	青瓷線彫文壺	平成21年(2009)	第101回九州山口陶磁展第1部第1位 文部科学大臣奨励賞	日本工芸会
71	中島康夫	佐賀県	2004-3II	平成16年(2004)		日展
72	中村多美こ	佐賀県	和紙染鉢	平成30年(2018)	第110回九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
73	中村清吾	佐賀県	白磁鉢	平成25年(2013)	第45回日展出品作	日本工芸会
74	中村 慎	佐賀県	爽風	平成25年(2013)	第29回西部工芸展入選作	日展
75	西山宗元	長崎県	青白瓷竹割線文壺	平成6年(1994)	第92回九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
76	西山正	佐賀県	青白磁千段深鉢	平成7年(1995)		日本工芸会
77	野中拓	佐賀県	天目幾何文花器	平成30年(2018)	改組新第6回日展	日本工芸会
78	馬場九洲夫	佐賀県	彩雲・19	令和元年(2019)	第41回日本新工芸展出品作	日展
79	福島清海	佐賀県	春光	令和元年(2019)	第66回日本伝統工芸展入選作	日展
80	福吉浩一	熊本県	炭化線象嵌鎬花器	令和元年(2019)	第30回日展出品作	日本工芸会
81	藤井剛	佐賀県	冰山	平成11年(1999)		日展
82	藤ノ木土平	佐賀県	唐津灰被月と稚龍と 四方十牛図壺	令和2年(2020)	改組新第4回日展出品作	無所属
83	前田泰昭	佐賀県	祭り	平成29年(2017)	第65回日本伝統工芸展入選作	日展
84	松尾潤	佐賀県	青瓷壺	平成30年(2018)	第66回日本伝統工芸展入選作	日本工芸会
85	松尾勝也	佐賀県	艶釉彩深鉢「創」	令和元年(2019)	改組新第6回日展入選作	日本工芸会
86	松尾博之	佐賀県	雪の華	令和元年(2019)		日展
87	松本 浩	佐賀県	彫文花器	平成28年(2016)	第57回日本現代工芸美術展出品作	日本工芸会
88	丸田延親	佐賀県	夕暮れ	平成30年(2018)		日展
89	溝上藻風	佐賀県	唐津石はぜ茶盃	令和2年(2020)		日展
90	宮尾正隆	佐賀県	波紋	平成28年(2016)	第65回日本伝統工芸展出品作	日展
91	宮崎祐輔	佐賀県	白金銀彩長皿	平成30年(2018)		日本工芸会
92	百田暁生	佐賀県	青白磁花入	令和元年(2019)	全国伝統工芸士作品展出品作	日本工芸会
93	矢鋪與左衛門	佐賀県	青白磁楕円深鉢	平成22年(2010)	第63回日本伝統工芸展入選作	日本工芸会
94	山口春右衛門	長崎県	白磁広口八角壺	平成28年(2016)	第64回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
95	山口文彦	佐賀県	青白磁線文壺	平成29年(2017)	第65回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
96	山口幹彦	佐賀県	紅染飛翔文水指	平成22年(2010)		日本工芸会

所属別構成		県別構成	
日本工芸会	52名	佐賀県	61名
日展系	31名	福岡県	15名
民陶系	2名	鹿児島県	9名
無所属	11名	長崎県	6名
計	96名	熊本県	5名
		計	96名



88 夕暮れ
丸田 延親
2018年 佐賀県



38 彩釉割高台茶碗
高鶴 元
2020年 福岡県



84 青瓷壺
松尾 潤
2018年 佐賀県
第66回日本伝統工芸展入選作



96 紅染飛翔文水差
山口 幹彦
2010年 佐賀県

2. 企画展・テーマ展など

◎主催展

(1) 企画展 寄贈名品 100 選 —肥前からアジアの陶磁器まで—

趣 旨

開館以来、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示並びに調査研究を行うとともに、その教育普及を図り、併せて九州圏域の陶磁振興に寄与することを目指してまいりました。40年間で収集した資料は約3万点にのぼりますが、その9割以上は多くの陶磁器コレクター、陶磁器ファン、陶芸家の皆様からご寄贈いただいたものです。

それらの貴重な寄贈品のなかから、優れた陶磁器作品や特徴ある陶磁器を100件厳選し、多彩な当館の陶磁器資料を公開いたします。

<広報用資料より>

会 期 令和3年(2021年)10月8日(金)～令和3年(2021年)12月12日(日) (58日間)

会 場 佐賀県立九州陶磁文化館 第1・第2展示室

主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

観 覧 料 無料

入 館 者 6,221人 1日平均107人

出品件数 100件(国の重要文化財1件、佐賀県重要文化財4件を含む。)

展示構成 第1章 肥前佐賀の陶磁器(唐津・武雄・有田・鍋島などから近代)

第2章 佐賀の陶芸作家・デザイナー

第3章 九州と日本各地の陶磁器(波佐見・三川内・上野・高取・小代・薩摩・京都・瀬戸など)

第4章 アジアの陶磁器(中国・朝鮮・ベトナム・タイなど)

展示内容 佐賀県立九州陶磁文化館が寄贈を受け所蔵する陶磁器100件133点

(国の重要文化財1件 佐賀県重要文化財4件を含む。)

柴田夫妻コレクション 高取家コレクション 白雨コレクション 中島宏コレクション 柴澤コレクション 今泉吉郎・吉博コレクション 青木龍山作品 澤田痴陶人作品など



染付山水文輪花大皿

重要文化財

肥前 有田 1640～1650年代

今泉吉郎氏寄贈



鉄絵緑彩松樹文大皿

佐賀県重要文化財

肥前 武雄 1620～1640年代

中島宏コレクション



灰釉彫文茶碗 銘 玄海
佐賀県重要文化財
肥前 岸岳 飯洞窯窯 1580~1600 年代
高取家コレクション



色絵群馬文変形皿 (5点)
佐賀県重要文化財
肥前 有田 岩谷川内 1650 年代
白雨コレクション



銕瑠璃青磁釉蓮鷺文輪花三足皿
佐賀県重要文化財
肥前 有田 1640 年代
小荷田謙一氏寄贈



展示風景



学芸員によるギャラリートーク



展示風景

◎共催展

(1) 第117回有田国際陶磁展（美術工芸品・オブジェ部門）

趣 旨

我が国における磁器発祥の地、佐賀県有田町に世界の陶磁器製品を集め、一般の鑑賞に供し、技術の交流、品質の向上、デザインの改善を図り、伝統工芸の継承と産業的発展を期して、この陶磁展を開催します。

<開催要項より>

審 査 評

まず、2019年末から世界的に流行し始めた新型コロナウイルス感染症への対策として昨年の開催が中止された、第117回有田国際陶磁展がこのたび実施されますことを心からお祝い申し上げます。

美術工芸品・オブジェ部門の審査は、2年前の前の応募点数（109点）に比べてやや少ない102作品を対象にしておこなわれ、70点が入選となりました。審査は3名の審査員が30点ずつを一次選考した後に合議で精査して決定しました。入選作はいずれも完成度の高い作品ばかりですが、さらにこれらを対象に二次審査をおこなって21点を授賞候補とし、合議の上、うち15点が芸術性において特に優れているとして受賞することに決めました。

第一席の文部科学大臣賞を受賞した中村清吾さんの《白磁鉢》は、作り手の確かな技術力と表現力がよくわかる作品です。力強く伸びやかな磁土の立ち上がりとし造形的な厳しさがみごとに融合して、他を圧する迫力を放つ存在感から選考されました。

佐賀県知事賞を受賞した山口淀さんの《緑彩線文扁壺》は、土の造形ならではのたおやかな曲面性と器表に施されたシックで簡潔なパターンが織りなす視覚効果で、かたちにじつに豊かな情感を宿らせています。

有田町長賞を受賞した沢田一葉さんの《祥衣》は、災禍や社会不安に対する切実な想いを、素材の物質性を生かした肌合いが示す純朴な感覚とともに、一つの祈りのかたちに立ち上げています。

今回の審査のトピックとして、ご家族での受賞があります。もちろん審査結果の偶然ですが、有田町長賞受賞者の沢田さんと陶都有田国際交流協会賞受賞作《Guglia》の作者バルトリーニ レオナルドさんはご夫婦ですし、西日本新聞社賞《搔落寒芍薬文花瓶》の井上菊さんと読売新聞社賞《白の森》の井上康さんもご夫婦で、日本経済新聞社賞《黒釉掛分象嵌鉢「舞」》の井上りり子さんは二人のご母堂です。近接した制作環境での日常的な切磋琢磨が想像されます。

ところで、工芸的造形とは素材の物質性を技術力でもって可視的な表現領域へと昇華させるという創造行為です。そのためには、作り手自らがまず素材と親しく交感を重ね、その物質性をよく知覚することが大切です。この行為のうちに作り手の表現の可能性（ポテンシャルティ）は自ずと高められていくはずで。

次回も、完成度の高い力作が多数応募されることを願っています。

<審査員長 石崎泰之氏 審査評より抜粋>

会 期 令和3年(2021年)4月29日(木・祝)～5月9日(日) (11日間)

会 場 第1・第2展示室

主 催 佐賀県、有田町、有田商工会議所

出品概要 入選70点 うち入賞15点

招待作品 4点(美術工芸品・オブジェ部門)

出品目録 A4版27ページカラー 図版38

入館者 1,165人 1日平均106人

審査員 石崎 泰之 岐阜県現代陶芸美術館館長

河合 徳夫 日展特別会員、日本新工芸家連盟理事

神農 巖 日本工芸会常任理事



「白磁鉢」
中村清吾
第一位 文部科学大臣賞

美術工芸品・オブジェ部門〈出品概要〉



展示風景

県名	出品者数	出品点数	入選点数	入賞点数
山口県	6	6	5	1
福岡県	14	15	8	3
佐賀県	42	45	31	5
長崎県	10	10	10	1
熊本県	4	6	3	2
大分県	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0
鹿児島県	1	2	1	0
沖縄県	0	0	0	0
他国内	17	18	12	3
海外	0	0	0	0
計	94	102	70	15

〈有田国際陶磁展 入賞者名簿〉

賞	入賞作品名	氏名	住所
文部科学大臣賞	白磁鉢	中村 清吾	佐賀県西松浦郡有田町
2位・佐賀県知事賞	緑彩線文扁壺	山口 淀	長崎県北松浦郡佐々町
3位・有田町長賞	祥衣	沢田 一葉	熊本県熊本市
佐賀県陶芸協会賞	遊水	浦郷 壮	佐賀県武雄市
朝日新聞社賞	緋色花器	上田 敦之	山口県防府市
熊本放送賞	ゆき風	六平	佐賀県武雄市
佐賀県商工会議所連合会賞	釉象嵌鉢	中尾 純	佐賀県西松浦郡有田町
佐賀新聞社賞	萌葱青磁釉鉢	高森 誠司	佐賀県西松浦郡有田町
サガテレビ賞	濃彩斜陶	山本 昌弘	滋賀県近江八幡市
陶業時報社賞	窯変形錆付発条体 古代の聲	玄平	京都市伏見区
西日本新聞社賞	播落寒芍薬文花器	井上 菊	福岡県福岡市
日刊工業新聞社賞	逢雲	宮島 正志	東京都北区
日本経済新聞社賞	黒釉掛分象嵌鉢「舞」	井上 るり子	福岡県福岡市
読売新聞社賞	白の森	井上 康	福岡県福岡市
陶都有田国際交流協会賞	Guglia	バルトリーニ レオナルド	熊本県熊本市

〈招待作品〉（審査員・重要無形文化財）

作品名	出品者名	住所
漂	河合 徳夫	京都府京都市
青磁堆磁線文鉢	神農 巖	滋賀県大津市
白磁面取り壺	井上 萬二（重要無形文化財）	佐賀県有田町
色絵雪花墨色墨はじき石落文鉢	今泉 今右衛門（重要無形文化財）	佐賀県有田町

◎後援展

(1)第 42 回九州新工芸展

趣 旨

九州新工芸家連盟は工芸の本質を問い、現代に望まれ、未来を明示できる生活造形を確立することを目標としています。生活のなかに求められるもの、生活を豊かにするための造形美を追求し、多様化する造形指向の中にある工芸の位置付けを明確にしたいと考えています。工芸活動は、陶芸、金工、漆芸、染色をはじめ、木竹、皮革、硝子、七宝、人形、紙工芸など、多岐にわたり生活との接点が非常に多いものです。各作家の各分野で素材を生かした造形作品の出品を期待します。＜開催要項より＞

会 期 令和3年7月28日(水)～8月9日(月・祝) (12日間)

会 場 佐賀県立九州陶磁文化館

主 催 九州新工芸家連盟

後 援 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県
宮崎県・鹿児島県・佐賀県立九州陶磁文化館
NHK佐賀放送局・佐賀新聞社・サガテレビ

展示内容 32点(磁器3点・陶器5点・染色・14点・竹工6点・人形3点・
他1点)

入 館 者 903人 1日平均75人

審 査 員 鈴木 由紀夫 佐賀県立九州陶磁文化館館長
日高 薫 NHK佐賀放送局営業部部長
前田 泰昭 公益社団法人日本新工芸家連盟顧問
生野 徳三 公益社団法人日本新工芸家連盟審議委員
田中 嘉生 公益社団法人日本新工芸家連盟理事



「思いがけない空白」
田中忍
令和3年度 大賞

九州新工芸 令和3年度受賞者リスト				
賞	入賞作品名	分野	受賞者氏名	住所
大賞	思いがけない空白	磁器	田中 忍	嬉野市
福岡県知事賞	獅子舞	染色	徳永 武洋	朝倉市
佐賀県知事賞	Song of the River	染色	猪俣 美帆	福岡市
長崎県知事賞	風韻	人形	澄川 幸子	長与町
大分県知事賞	シナプス	竹工	長谷川 絢	竹田市
宮崎県知事賞	面影	竹工	谷口 倫都	竹田市
鹿児島県知事賞	櫻	人形	山田 和子	長崎市
佐賀県立九州陶磁文化館館長賞	朝霧	陶器	白津 愛優	唐津市
城秀男賞	悠揚	染色	奥田 民子	東京都
読売新聞社賞	予期せぬ出会い	染色	蓮井 ひろ	福岡市
佐賀新聞社賞	花ととり	磁器	岡部 美智子	有田町
NHK 佐賀放送局賞	暮れゆくとき	染色	渡邊 成樹	武雄市
サガテレビ賞	composition II	染色	鳥谷 さやか	福岡市

奨励賞	美蓄	竹工	大鍛冶 未来	豊後高田市
奨励賞	なぞって	染色	小柳 佳澄	佐賀市
奨励賞	戯れ	染色	森 優菜	佐賀市

(2) 第1回伊万里・有田焼伝統工芸士、佐賀県陶磁器技能士連合会展

趣 旨

本年は、伝統工芸士展 20 回目を迎える年ではありますが、ここで一つの節目として本年度より技能士連合会と合同による作品展を開催する運びとなりました。〈広報資料より〉

- 会 期** 令和3年(2021年)8月21日(土)～8月29日(日) (8日間)
会 場 佐賀県立九州陶磁文化館 第1展示室、講堂
主 催 伊万里・有田焼伝統工芸士会、佐賀県陶磁器技能士連合会
後 援 佐賀県立九州陶磁文化館、(一財)伝統的工芸品産業振興協会、佐賀県陶磁器工業協同組合
展示内容 伝統工芸士と佐賀県陶磁器技能士による作品を展示 約90点を展示
入館者 682人 1日平均85人
イベント エントランス、展示会場にて応援メッセージを収録したPR動画等を放映



展示風景



展示作品

(3) 第30回 陶千坊展

趣 旨

「子供のように純真・純粹な感性と心で焼き物を製作し、新しいことに挑戦する仲間として集い、自由でかつ達な運営により相乗的な技術的向上と発展を目指す陶芸展」の開催を目標とし、今回で30回目を迎える。

〈開催企画書より〉

- 会 期** 令和3年(2021年)8月31日(火)～9月5日(日) (6日間)
会 場 佐賀県立九州陶磁文化館 第1展示室
主 催 陶千坊
後 援 佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容 陶芸作品全般(オブジェ、器、陶人形等) 約300点を展示
入館者 399人 1日平均67人



観覧の様子



展示風景

(4) 第37回 有田陶交会展 「break !」

- 趣 旨** 「break」は、壊す・砕く・割る・折る・などの直接的な意味の他にも、「break through」のように、現状を打破する・突破する・切り抜ける・克服するという前向きな表現にも使われる単語です。このコロナ禍で大きな影響を受けている現状に対し自由な発想で、我々なりの「break !」を発信できればと思っています。また、今回も佐賀大学有田キャンパスで学ぶ学生の作品も展示いたします。＜開催要項より＞
- 会 期** 令和3年(2021年)9月18日(土)～9月26日(日) (8日間)
- 会 場** 佐賀県立九州陶磁文化館 第1展示室
- 主 催** 有田陶交会
- 後 援** 佐賀県立九州陶磁文化館、肥前陶磁器商工協同組合、佐賀県陶磁器工業協同組合
- 展示内容** テーマ『break!』、有田陶交会に参加している17名により制作発表される作品と、佐賀大学有田キャンパスの学生の作品
- 入 館 者** 626人 1日平均78人



展示風景



展示作品

(5) 第53回有田工業高等学校卒業制作展

趣 旨

本校は工業の原点である「ものづくり」を通して、創造的で、行動力に満ちた、他者への思いやりの心を持つ人間性豊かなスペシャリストの育成を目指しております。

このたび開催予定の卒業制作展で発表する作品は、卒業学年の「課題研究」で取り組んだものを中心に、多種多様な分野に果敢に挑戦して制作したものです。

この作品展は53年前にデザイン科のみでスタートしましたが、平成元年よりセラミック科が加わり年ごとに充実し、西暦2000年には創立100周年を機に本校の一層の発展を期して全校・全学科をあげて開催するとなりました。今後も「ものづくり」の有田工業高校の更なる飛躍を目指す所存でございますので、ご理解とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。＜開催要項より＞

- 会 期** 令和4年(2021年)1月18日(火)～1月23日(日) (6日間)
- 会 場** 佐賀県立九州陶磁文化館 第一展示室及び一般研修室
- 主 催** 佐賀県立有田工業高等学校
- 後 援** 佐賀県立九州陶磁文化館
- 出品概要** 生徒数210人(全日制:188人 定時制:12人 聴講生10人)による約500点展示
- 展示内容**

- 【セラミック科】** ろくろ成形の研究、手びねり・板づくり成形の研究、鑄込み・押し型成形の研究、陶磁器加飾法の研究、リサイクル磁器の研究、ファインセラカー3号の制作、釉薬、陶紙の研究
- 【デザイン科】** 「d・stance」～ニューノーマルな社会に、有田からモノやコトを発信～ランディング・イベント企画運営・地域活性化プラン・他)
- 【電 気 科】** プロジェクションマッピング、サッカーロボットの製作、展示用作品の製作、熱加工機の製作、New イライラ棒の制作 (Ver.3)、地域と繋がる高校魅力作りプロジェクト (人工衛星の製作)
- 【機 械 科】** 校内の修理・営繕、ノーマライゼーションの視点から考えるハンドサイクル製作、学校PR制作物、キックボードの製作、施盤や溶接を使ったものづくり、鑄造を用いたものづくりほか
- 【定 時 制】** 定時制(セラミック科、デザイン科)の生徒作品・聴講生作品

入館者 1,603人 1日平均267人



展示風景



展示風景



展示風景



展示風景



展示作品



(6) 第32回九州陶磁器デザイナー協会展

趣 旨

九州陶磁器デザイナー協会は、佐賀・長崎にまたがる肥前窯業圏を中心として、陶磁器デザインに関わる企業デザイナー・教育者・窯業技術センター職員等の親睦と研修の集まりです。

その始まりは、昭和26年にまでさかのぼりますが、会としての形式は特に整えず、問題意識のある人達が自由に集まって発言をする場として永く続いてまいりました。陶磁器を通して地域のなかに根付き、戦後デザイン運動の九州での母体ともなってきました。

このたび第32回目の協会展を開き、現在の各会員の作品を紹介すると共に、成果を多くの人に観て頂きたいと思っております。

<開催要項より>

会 期 令和4年(2022年)1月25日(火)～1月30日(日) (6日間)

会 場 第1展示室

主 催 九州陶磁器デザイナー協会

後 援 佐賀県立九州陶磁文化館、有田町、波佐見町、佐賀県陶磁器工業協同組合、波佐見陶磁器工業協同組合

展示内容 九州陶磁器デザイナー協会(通称DAKT)の会員によるテーマに合わせた陶磁器作品

第32回目のテーマは「暮らしを楽しむ コロナ期に何を考えて作ったか」

作品数 約200点

入館者 473人 1日平均79人



展示風景

3. 利用状況

◎月毎の入館者数

月	開館日数	入館者数	月	開館日数	入館者数
4月	26	1,278	11月	26	2,905
5月	27	1,583	12月	24	1,632
6月	26	727	1月	24	2,656
7月	27	1,671	2月	—	—
8月	25	1,627	3月	—	—
9月	26	1,663	合計	258	18,532
10月	27	2,790	平均	21.5	1,544

No.	展覧会名	主催・共催	会期	日数	入館者数
1	第117回有田国際陶磁展	共催	4/29～5/9	11	1,165
2	第42回九州新工芸展		7/28～8/9	12	903
3	第1回伊万里・有田伝統工芸士、佐賀県陶磁器技能士連合会展		8/21～8/29	8	682
4	第30回陶千坊展		8/31～9/5	6	399
5	第37回有田陶交会展		9/18～9/26	8	626
6	企画展 寄贈名品100選—肥前からアジアの陶磁器まで—	主催	10/8～12/12	58	6,221
7	第53回有田工業高等学校卒業制作展		1/18～23	6	1,603
8	第32回九州陶磁器デザイナー協会展		1/25～30	6	473

4. 館蔵資料等の貸出

貸出資料数一覧

許可番号	No.	事業・展覧会・目的	貸出期間	貸出先	貸出	
					件数	点数
561	1	常設展「日本と世界のやきもの」通史部門・日本ゾーン内「古窯陶磁資料展示コーナー」出品	R3. 4. 1～R4. 3. 31	愛知県陶磁美術館	29	183
562	2	佐賀県議会議長室に展示	R3. 4. 1～R4. 3. 31	佐賀県議会事務局	2	2
563	3	来賓室・副知事室に展示	R3. 4. 1～R4. 3. 31	佐賀県秘書課	2	2
564	4	佐賀県首都圏事務所応接室に展示	R3. 4. 1～R4. 3. 31	佐賀県首都圏事務所	2	2
565	5	佐賀県教育長室に展示	R3. 4. 1～R4. 3. 31	佐賀県教育庁教育総務課	1	1
566	6	常設展示「日本列島と朝鮮半島の交流史」で展示	R3. 4. 1～R4. 3. 31	佐賀県立名護屋城博物館	5	5
567	7	嬉野市史編纂における不動山窯跡遺物（皿屋谷1号、2号、3号）の調査	R3. 4. 1～R4. 3. 31	嬉野市教育委員会	3	277
568	8	九州産業大学創立60周年記念特別展「酒井田柿右衛門×九州産業大学=IMARI」で展示	R3. 4. 1～R4. 3. 31	学校法人中村産業学園 九州産業大学	9	17
569	9	広島県立美術館主催の特別展「はるかなる古伊万里」展に展示	R3. 9. 1～R3. 12. 31	広島県立美術館	131	162
令和3年度 貸出資料数：184件 651点						

5. 館蔵資料等の閲覧・撮影・画像原稿借用・画像使用等

令和3年（2021年）4月1日～令和4年（2022年）3月31日 86件（865点）

*この他、施設としての撮影6件

グローバル化推進事業

1. 目的

九州陶磁文化館の展示内容を外国人にもわかりやすいものに磨き上げることにより、有田焼をはじめとする本県が誇るやきもの文化の魅力や価値を国内外に発信する。

2. 背景

2022年の佐賀・長崎デスティネーションキャンペーンを控え、新型コロナウイルス感染症収束後の欧米からの来訪拡大が期待される中、九州陶磁文化館をグローバルな文化観光の拠点として活用した地域活性化が求められている。

3. 事業内容

- ・外国人にも有田焼の価値が伝わる展示内容に常設展示を更新
固定常設展示室（旧第4展示室）の全面更新、柴田夫妻コレクションの一部更新
- ・多言語解説（英文）の整備
- ・館内サイン等の充実
- ・展示室名の整理

4. 事業期間 令和2年度～令和3年度（2020年度～2021年度）

佐賀県立九州陶磁文化館展示リニューアル設計事業業務委託

委託期間 令和2年9月4日～令和3年3月26日

委託先 株式会社丹青社

佐賀県立九州陶磁文化館グローバル化推進事業業務委託

委託期間 令和3年5月25日～令和4年3月28日

委託先 株式会社丹青社

新第1展示室 常設展「有田焼の歴史」

- 1 日本磁器の誕生
- 2 技術の革新
- 3 日本磁器の完成
- 4 海を渡る
- 5 暮らしを彩る
- 6 新時代の幕開け
- 7 今とこれから

テーマ展示 有田焼Q&A 有田焼ができるまで
やきもの産地マップ 有田焼のデザイン



旧第4展示室→新第1展示室

教育普及活動

1. 展示案内

団体案内は予約制だが、要望に応じて随時対応している

令和3年度 展示案内 実施回数

	実施回数						人数					
	学芸	総務	会計年度任用職員	予約		計	学芸	総務	会計年度任用職員	予約		計
				予約	その他					予約	その他	
4月	4	0	0	0	0	4	28	0	0	0	0	28
5月	2	0	1	1	0	3	11	0	60	60	0	71
6月	0	0	3	3	0	3	0	0	40	40	0	40
7月	2	0	6	6	0	8	19	0	116	116	0	135
8月	3	0	4	4	0	7	12	0	33	33	0	45
9月	0	0	1	1	0	1	0	0	13	13	0	13
10月	1	0	14	14	0	15	6	0	748	748	0	754
11月	6	0	11	11	0	17	146	0	547	547	0	693
12月	1	0	6	6	0	7	17	0	154	154	0	171
1月	2	0	4	4	0	6	10	0	80	80	0	90
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	21	0	50	50	0	71	249	0	1,791	1,791	0	2,040

令和3年度 団体観覧

	展示案内		自由観覧		学校行事観覧		合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
4月	0	0	1	45	0	0	1	45
5月	0	0	0	0	2	94	2	94
6月	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	1	23	1	22	3	128	5	173
8月	0	0	1	54	0	0	1	54
9月	0	0	0	0	2	255	2	255
10月	1	60	0	0	11	862	12	922
11月	1	29	2	59	9	583	12	671
12月	3	98	0	0	1	20	4	118
1月	0	0	0	0	10	350	10	350
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6	210	5	180	38	2,292	49	2,682

*学校行事観覧(団体)は、案内の有無にかかわらず記載

2. イベント・行事など

◎笑顔 de さいこうマルシェ

期 間 令和3年(2021年)4月29日(木・祝)～令和3年5月5日(水・祝) (7日間)

場 所 佐賀県立九州陶磁文化館 エントランス

主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

内 容 お菓子・雑貨・手芸品など個性あふれる3店舗が九州陶磁文化館に出店しました。



出店の様子

◎夏休み子供向けイベント

期 間 令和3年(2021年)7月21日(水)～8月31日(火) (35日間)

場 所 佐賀県立九州陶磁文化館 エントランス

主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

内 容 夏のイベントとして、オリジナル風鈴、粘土細工、折り紙等の体験を行った。

◆オリジナル風鈴 (1個 600円)

有田焼の真っ白な風鈴に色とりどりのペンで絵付けをしてオリジナル風鈴を制作

◆粘土の小物作り(1個 500円)

やわらかくカラフルなタピオカスライム粘土で、思い思いのキャラクターなどを制作

◆折り紙を折ろう! (参加無料)

夏の思い出や好きなものなど折り紙を使って自由に制作

<館内のお知らせより>



イベントの様子



オリジナル風鈴づくり



ねんどの小物づくり

3. 印刷物等の刊行

館報「セラミック九州」58号

編集：佐賀県立九州陶磁文化館

発行：佐賀県立九州陶磁文化館

発行日：令和4年（2022年）3月17日

規格：A4判、オールカラー、8ページ

- 内容：・令和4年4月にリニューアルした常設展示「有田焼の歴史」の概要、主な展示作品の紹介。
- ・令和4年度 特別企画展「海を渡った古伊万里～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」、「未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ」のお知らせ。
 - ・令和3年度企画展「寄贈名品100選展—肥前からアジアの陶磁器まで—」の報告。
 - ・肥前陶磁の見どころシリーズ(3)「2枚の染付梅鶯文皿 —南川原山を模倣した内山—」山本文子

紀要「佐賀県立九州陶磁文化館 研究紀要」第7号

編集：佐賀県立九州陶磁文化館

発行：佐賀県立九州陶磁文化館

発行日：令和4年（2022年）3月18日

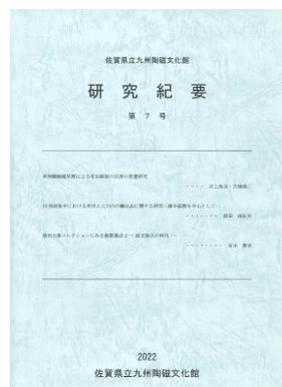
規格：A4判、85ページ(カラー62ページ)

- 内容：・呉須の変遷を研究した論考や、有田と三川内の薄手磁器についての研究、前号に引き続き柴田夫妻コレクションにみられる銘の紹介といった調査研究の結果を収録
- ・「実体顕微鏡写真による有田磁器の呉須の変遷研究」井上康彦・大橋康二
 - ・「19世紀後半における有田と三川内の輸出品に関する研究— 薄手磁器を中心として」 鈴田由紀夫
 - ・「柴田夫妻コレクションにみる銘款集成2—延宝様式の時代—」 宮木貴史

その他：電子版をWeb公開。



セラミック九州 58号



佐賀県立九州陶磁文化館
研究紀要 第7号

4. 博物館実習

趣 旨 博物館実習をする大学生を対象に、館の運営・資料の収集・展示・保管などについて指導する。

期 間・受 講 者

・令和3年（2021年）8月2日（月）～8月6日（金） 福岡大学1名

場 所 佐賀県立九州陶磁文化館

内 容 館内での業務実習

- ・館の運営の概要と施設の見学
- ・陶磁概論
- ・陶磁資料の取り扱い方
- ・受付、案内業務実習
- ・図書整理
- ・収蔵資料整理
- ・展示解説の見学
- ・展示解説の検討、発表
- ・展覧会準備の実務

5. 講演など

No.	期日	演題	主催・場所	対象	講師
1	R3.9.14	さが学講座「佐賀藩の近代化事業と陶磁器」	主催：佐賀市立神野公民館 場所：佐賀市立神野公民館	講座参加者	徳永貞紹
2	R3.10.10	陶磁器における名品とは？	主催：佐賀県立生涯学習センター 場所：アバンセ	講座参加者	藤原友子
3	R3.11.10	出前講座「さかのやきもの」	主催：伊万里税務署 場所：伊万里税務署	伊万里税務署職員	徳永貞紹
4	R3.11.12	有田女性やきもの勉強会	主催：有田女性やきもの勉強会 場所：佐賀県立九州陶磁文化館	講演会参加者	鈴田由紀夫

調査研究活動

1. 調査

No.	期日	目的	調査地	調査者
1	R3.6.4	資料調査	多久市	徳永貞紹
2	R3.6.11	資料調査	長崎県佐世保市	鈴田由紀夫
3	R3.7.15	資料調査	佐賀市	徳永貞紹 宮木貴史
4	R3.8.26	資料調査	伊万里市	藤原友子 山本文子
5	R3.10.6	資料調査	有田町	宮木貴史

6	R3. 12. 6	資料調査	有田町	鈴田由紀夫
7	R3. 12. 22	資料調査	長崎県佐世保市	鈴田由紀夫
8	R4. 1. 27	資料調査	有田町	山本文子

2. 調査協力・研修・出張など

No.	期日	内容	場所	主催・依頼等	担当者
1	R3. 4. 14	多言語化事業（文化庁補助事業）	唐津市	有田焼多言語化推進事業実行委員会	藤原友子
2	R3. 6. 8	令和3年度文化財担当者会議	佐賀県庁	佐賀県文化財保護室	宮木貴史
3	R3. 7. 2	伊万里・有田焼産地委員会	有田町	伊万里・有田焼産地委員会	藤原友子
4	R3. 7. 5	伊万里・有田焼産地委員会	有田町	伊万里・有田焼産地委員会	藤原友子
5	R3. 8. 30	長崎県文化財保護審議会	長崎県庁	長崎県学芸文化課	藤原友子
6	R3. 9. 15	伝統工芸士実技試験審査	有田町	伊万里・有田焼産地委員会	藤原友子
7	R3. 10. 26	佐賀県博物館協会研修会	佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館	藤原友子
8	R3. 10. 26～ 10. 27	陶磁ネットワーク会議	福井県丹生郡越前町	陶磁ネットワーク	加藤英治 徳永貞紹 田中晋一 宮木貴史
9	R3. 10. 29	伝統工芸士実技試験 作品審査会	有田町	伊万里・有田焼産地委員会	藤原友子
10	R3. 12. 6	有田中部小学校校内焼物展審査	有田中部小学校	有田中部小学校	鈴田由紀夫
11	R3. 12. 16	第二回有田磁石場組合開発委員会	有田町	有田磁石場組合開発委員会	鈴田由紀夫
12	R4. 1. 12	多言語化事業（文化庁補助事業）	唐津市・有田町	有田焼多言語化推進事業実行委員会	藤原友子 山口由佳
13	R4. 3. 17	佐賀県文化財保護審議会	佐賀県庁	佐賀県文化財保護室	藤原友子 山本文子

3. 依頼資料調査

本館(来館)での依頼調査	31回(125件 159点)
写真等での依頼調査	51回(117件 155点)
計	82回(242件 314点)

資料収集活動

1. 陶磁資料の収集

令和3年度は寄贈資料5件5点を新たに収集した。

総計 15,300件 28,954点(令和4年3月31日現在)

2. 図書資料の収集

報告書	202
目録	11
紀要	129
海外	15
図録	151
年報	85
一般図書	39
その他	57
合計	689

文化財の指定

- ・令和4年(2022)年3月17日に開催された佐賀県文化財保護審議会において色絵花鳥文六角壺(収蔵番号00679)の佐賀県重要文化財指定が答申された。(令和4年4月28日指定)

記号番号 : 重第254号
種別 : 佐賀県重要文化財(工芸品)
名称及び員数 : 色絵花鳥文六角壺 2口

【指定理由】(文化財指定答申書より抜粋)

本作品は、染付を伴わない濁手素地に余白を生かした構図で繊細な線描きの絵付けが施されており、日本独自の色絵磁器を完成させた典型的な柿右衛門様式の特徴をよく表している。なかでも精巧な板作り成形の六角壺はヨーロッパ向けに作られた優品であり、年代基準資料であるメアリー2世(1662-1694年)コレクション(ハンプトン・コート宮殿)の類例であることは学術的な観点からも重要である。また、揃いの金属加工が施された2口セットでの伝世は、ヨーロッパの室内装飾品として受容された東洋陶磁の歴史背景を物語り、海外輸出され王侯貴族を魅了した肥前磁器を象徴する貴重な作例である。

よって、佐賀県文化財保護条例第4条第1項の規定に基づき佐賀県重要文化財に指定し、その保存及び活用を図るものである。



佐賀県立九州陶磁文化館資料目録 令和3年度（2021.4～2022.3）

凡 例

- この資料目録は、令和3年度の収蔵資料5件5点（寄贈）を掲載している。

寄贈 5件 5点

購入 0件 0点

管理換 0件 0点

令和3年度末の館蔵品総数は15,300件 28,954点である。

- 平成30年度までは、「収蔵番号」については、収蔵登録番号と収蔵年度で〈00000-30〉と表示していたが、令和元年度（2019年）から収蔵登録番号と収蔵年（西暦）で〈00000-2019〉と表示している。
- 寸法の単位はセンチメートルである。
- 令和3年度から分類の大区分の一部を変更した。
 - 「近代の肥前陶磁」032. 古伊万里・承応様式を031. 古伊万里・正保様式に統合した。
 - 「現代の陶磁器」を旧「現代作家作品」から改め、240. 佐賀県Ⅱ松本佩山は230. 佐賀県に統合した。

近世の肥前陶磁	011. 唐津系陶器
	021. 初期伊万里様式
	030. 古伊万里様式
	031. 古伊万里・正保様式
	033. 古伊万里・寛文様式
	034. 古伊万里・延宝様式
	035. 古伊万里・元禄様式
	036. 古伊万里・宝暦様式
	037. 古伊万里・天明様式
	038. 古伊万里・文政様式
近世の九州陶磁 (県外)	041. 柿右衛門様式
	051. 鍋島藩窯様式
	060. 長崎の陶磁器
	070. 福岡の陶磁器
	080. 熊本 of 陶磁器
	090. 大分の陶磁器
近代資料	100. 宮崎の陶磁器
	110. 鹿児島 of 陶磁器
九州以外 他	120. 沖縄 of 陶磁器
	130. 佐賀県 近代
	140. 九州 (県外) 近代
世界の陶磁器	150. 九州以外 近世
	160. 九州以外 近代
	170. 陶磁器関連資料 (文書・図案など)
	180. 中国 of 陶磁器
	190. 朝鮮 of 陶磁器
現代の陶磁器	200. アジア of 陶磁器
	210. ヨーロッパ of 陶磁器
	220. その他の世界の陶磁器
	230. 佐賀県
	250. 長崎県
	260. 福岡県
	270. 熊本県
	280. 大分県
	290. 宮崎県
	300. 鹿児島県
310. 沖縄県	
320. 九州以外	
330. 国外	

収蔵番号	資料名	点数	生産地/制作者	年代	口径	高さ	底径	寄贈者名
[011. 唐津系陶器]								
15301	-2021 呉須絵山水文皿	1	肥前系	18世紀カ	20.2	2.3	11.4	寄贈 工藤吉郎
[080 熊本の陶磁器]								
15300	-2021 褐釉四耳壺	1	肥後 上村	18世紀	12.4(胴 33.0)	41.4	15.5	寄贈
[140. 九州（県外）近代]								
15297	-2021 染付波文龍貼付広口花瓶	1	長崎県 三川内	明治時代 19世紀後半	23.7	30.3	13.6	寄贈 山口直輝
15298	-2021 染付鶯柳文花瓶	1	長崎県 三川内 鶴峰窯 中里巳 牛太（号三猿）	20世紀初頭	9.9	28.0	3.0	寄贈 山口直輝
[230. 佐賀県]								
15299	-2021 白磁鉢	1	中村清吾(1975～)	令和3年(2021 年)	46.5	35.8	11.8	寄贈 中村清吾

	年度	購入件数	購入点数	寄贈件数	寄贈点数	管理換件数	管理換点数	総件数	総点数
昭和	53	0	0	0	0	12	16	12	16
昭和	54	0	0	0	0	37	66	37	66
昭和	55	47	57	4	5	0	0	51	62
昭和	56	38	55	12	19	0	0	50	74
昭和	57	37	45	129	492	0	0	166	537
昭和	58	66	112	43	79	4	4	113	195
昭和	59	109	168	18	19	1	1	128	188
昭和	60	57	79	20	21	3	3	80	103
昭和	61	30	57	13	20	0	0	43	77
昭和	62	30	47	18	25	0	0	48	72
昭和	63	40	58	58	84	0	0	98	142
平成	1	37	60	21	30	1	1	59	91
平成	2	33	46	1,090	2,491	1	1	1,124	2,538
平成	3	47	134	241	359	1	1	289	494
平成	4	8	16	336	646	1	1	345	663
平成	5	14	18	27	40	0	0	41	58
平成	6	10	10	572	1,514	1	1	583	1,525
平成	7	19	19	211	598	1	1	231	618
平成	8	5	5	759	1,788	1	1	765	1,794
平成	9	8	18	300	526	1	1	309	545
平成	10	35	35	272	563	12	12	319	610
平成	11	25	46	284	797	84	85	393	928
平成	12	1	1	172	386	0	0	173	387
平成	13	9	9	194	480	0	0	203	489
平成	14	4	5	632	1,304	0	0	636	1,309
平成	15	6	6	329	813	0	0	335	819
平成	16	14	14	59	65	0	0	73	79
平成	17	5	9	69	75	0	0	74	84
平成	18	9	9	574	1,775	0	0	583	1,784
平成	19	6	6	47	64	0	0	53	70
平成	20	0	0	415	695	0	0	415	695
平成	21	0	0	512	1,030	0	0	512	1,030
平成	22	0	0	222	281	0	0	222	281
平成	23	0	0	3,652	4,818	0	0	3,652	4,818
平成	24	0	0	200	250	0	0	200	250
平成	25	3	3	30	59	1	1	34	63
平成	26	0	0	223	249	0	0	223	249
平成	27	1	1	678	1,089	0	0	679	1,090
平成	28	2	2	21	43	0	0	23	45
平成	29	3	3	618	637	1	18	622	658
平成	30	1	1	165	177	0	0	166	178
令和	1(2019)	3	231	1,122	2,934	0	0	1,125	3,165
令和	2(2020)	3	5	3	3	2	2	8	10
令和	3(2021)	0	0	5	5	0	0	5	5
合計		765	1390	14370	27348	165	216	15,300	28,954

佐賀県立九州陶磁文化館年報・資料目録

No. 41 令和3年度

発行日 令和4年(2022年)7月28日

編集・発行 佐賀県立九州陶磁文化館

〒844-8585

佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1

TEL 0955-43-3681

FAX 0955-43-3324

<https://saga-museum.jp/ceramic/>

E-mail:kyuto@pref.saga.lg.jp

